

第13回全国空手道指導者研修会



第13回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）が8月16日～18日の3日間、東京・辰巳の日本空手道会館で66名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、我が国固有の伝統と文化に立脚した研修会として実施され、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導法及び専門的な知識・技術の充実を図り、以って中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

■ 1日目（8月16日）



笹川堯会長

大道場にて開講式が行われた。はじめにささがわたくかし笹川堯公益財団法人全日本空手道連盟会長が挨拶に立ち、「空手道は学校教育が主眼である。空手道を通して子供たちの健全な心身を育んでいくことに貢献していきたい」と述べた。次によしかわひでお吉川英夫公益財団法人日本武道館理事・事務局長



吉川英夫理事・事務局長

が挨拶に立ち、「空手道の授業を受ける生徒たちに良い感触をもってもらうためには、指導者が心の底から楽しんで、礼節をもって指導に当たることが大切である」と呼びかけた。

次に講師を代表してこやまさし小山正辰講師が挨拶に立ち「今年ふなこしぎちんは船越義珍先生が東京で初めて空手を公開してから、ちょうど100年という記念すべき年に研修会に参加いただいたということを胸に、この3日間を我々講師と一緒に楽しんでいただけたらと思います」と述べた。

開講式後、くりはらしげお栗原茂夫講師が「2020年東京五輪の成果と課題」をテーマに講義を行った。オリンピックまでの道のりを振り返り、今後の展望について言及し、「空手道が広く社会に行き渡るように、安全で楽しい空手道を目指したいと思っています。それには何よりも、このような暑い中、本研修会に参加していただいている皆さまのような熱意を持った方が不可欠であります」と感謝を述べた。

続いてくさかしゅうじ日下修次講師より「学校武道推進事業の取り組み」をテーマに講義が行われた。日下講師はスポーツ教育の目標や空手道授業実施中学校の、これまでの推移や研修会、学校訪問プロジェクトなど、様々な取り組みを紹介しながら学校武道推進活動について説明した。

1日目の最後には参加者が自分の空手道のレベルに合わせ、興味のある実技・講義を自由に選べる、テーマ別実習が行われた。大道場ではいしかわのりゆき石川周亨助講師によって基本技術の指導が行われた。礼法をはじめとする基本的な動作を行い、基本形一の団体

形を行った。石川助講師は「授業で空手道を行う際、悪いところを指摘するのではなく、こうしたら上手くできるようになる、ここを意識したらより良くなるなど、具体的に肯定的なアドバイスをすることが大切である」と述べた。

同じく大道場では井下佳織助講師が『優しく効果的で楽しい空手道授業づくり』を研究課題とし、遊びの要素を取り入れたウォーミングアップや、課題を楽しく達成するための新聞紙やチャンバラ棒などの道具を使った練習方法、生徒一人ひとりの達成感をポイントとした授業づくりを参加者に紹介・実践した。実習のまとめでは参加者を教師役と生徒役に分け、指導計画を作成し、模擬授業を行った。



中道場では小山講師、佐藤賢一講師が『教材理解と開発』をテーマに講義・実習を行った。佐藤講師は、ある生徒の例を用いて実際にこの生徒に対してどのように働きかけ、授業を展開するかなどのテーマで、グループワークを行った。実技では、基本形の分解を行い、小山講師は参加者に、「空手道は男子や女子、年齢や能力の差に関係なくできる競技である。様々な創意工夫を用いて現場で実践して欲しい」と呼びかけた。

■2日目（8月17日）

はじめに岩城公二講師による『空手道授業の現状』の講義が行われ、学習指導要領における武道授業のねらいや、自分自身を客観的に認識するために必要なメタ認知力を空手道の授業でどのように身に付けさせていくかなど、主体的で深い学びの実現に向けた授業展開について解説がされた。また、講義中のブレイクタイムを通して参加者に見方を変えると見えてくるものがあるということを説明した。その後、個人・団体形と約束組手の実践指導が行われた。

次に、日野一男講師により『空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像』をテーマに講義が行

われた。法の基本理念である「法は両刃の剣」、「権利の上に眠るものは保護に値せず」の解説に始まり、児童の責任能力や注意義務、過失について様々な判例を用いた説明が行われた。

午後は、佐藤講師による『特別支援学校における空手道授業』をテーマに講義と実技が行われた。講義の中で佐藤講師は「武道の課題は、敷居が高いと思われていることである」、「学校の授業では武道家を育成するわけではなく、武道の良さを通じた学校教育ができるのが空手道である。授業や単元の終わりに『楽しかった』『またやりたい』そんな言葉が飛び交う武道授業を一緒に取り組んでいきましょう」と参加者に呼びかけた。実技では、授業の実践例として、言葉だけではなく色を使った支援や音楽を用いて空手道の基本技を行う『パプリカラテ』や、様々な障害物を越えて、空手道の基本動作を行いながら進んでいく『空手道サーキット』が紹介された。



2日目の最後には野中史子講師によって団体形の指導が行われた。団体形の演武のポイントや試合の実践方法や審判のやり方などが動画や資料を活用して紹介された。講義の後半では参加者をグループ分けし、選手・審判・運営全てを参加者が行う団体形演武のトーナメント試合が行われた。

■3日目（8月18日）

最終日は、小山講師の指導の下、本研修会で習ったことを振り返りながら創作組手の実践が行われた。姿勢や見せ方を意識するように参加者に呼びかけ、グループに分かれ組手の創作と発表が行われた。初心者や経験者が混ざって意見を出しながら創作を行い、各グループの工夫を凝らした創作組手に拍手と称賛の声が上がった。

閉講式では和田健日本武道館振興課長が修了証の授与、日下講師が講評を、最後に栗原講師が挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。